

# YNU initiative

学士課程  
都市科学部  
都市社会共生学科

YOKOHAMA  
National  
University

**YNU** Initiative for Global Arts & Sciences  
横浜国立大学

発行：2024年3月31日

編集：横浜国立大学 学務・国際戦略部 教育企画課

[www.ynu.ac.jp](http://www.ynu.ac.jp)



# 都市科学部

College of Urban Science

---

## 都市社会共生学科

Department of Urban and Social Collaboration

---

## 建築学科

Department of Architecture and Building Science

---

## 都市基盤学科

Department of Civil Engineering

---

## 環境リスク共生学科

Department of Risk Management and Environmental Science

---

# 教育理念

## 都市科学部

College of Urban Science

### 都市社会共生学科

---

#### 都市科学部 (College of Urban Science)

都市科学部の教育理念は、国際都市＝横浜・神奈川地域に立脚して、グローバル化に積極的に対応し（「国際性」）、スタジオ教育等を通じた「実践」的取組みと、イノベーションにつながる教育の「先進」的取組みを進め、大都市をフィールドにして世界と日本、社会に「開放」された教育を目指している。

---

#### 都市社会共生学科

(Department of Urban and Social Collaboration)

都市社会共生学科の教育理念は、横浜・神奈川にとどまらず国内外のフィールドを舞台とし（「実践性」「国際性」）、21世紀の都市社会を特徴づけるダイバーシティが生み出す可能性やリスクに取り組み（「先進性」）、建築学や都市基盤学や環境リスク共生学との対話を通じて（「開放性」）、都市社会の未来を多角的に構想することにある。

# 教育目的

## 学部学科の人材養成目的 その他教育研究上の目的

[学則別表第4]

### 都市科学部 (College of Urban Science)

都市科学部の人材養成目的は、グローバルな課題とローカルな課題が直結する国際都市＝横浜・神奈川地域に立脚する本学独自の文理融合の蓄積とリスク共生学の強みをいかし、都市科学という今までにない学問領域の創出と、グローバルとローカルが直面する多様で複雑なリスク・課題の解決をはかることのできる人材養成を目指している。

### 都市社会共生学科 (Department of Urban and Social Collaboration)

都市社会共生学科の人材養成目的は、現代社会が抱える複合的な問題を解決するために、様々なフィールドを結びつけ社会や文化に対する批判的かつ創造的思考を発揮し、これを新しい価値観の創出のために応用し実践できる人材を育成することにある。

## Policy 1

# 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

## DP1 都市科学部(都市社会共生学科)が養成する人材

### [都市科学部が養成する人材]

- 理工学の素養と人文社会学の知識を学び、文理両面の視点を備えた人材
- ローカルおよびグローバルにわたる広い視野、横断的な課題解決能力、総合力を備えた人材
- 豊かさやリスクのバランスを適切にマネジメントするリスク共生学の基本を学び、自然・社会環境のリスクを総合的に理解できる人材
- 世界の異なる宗教や文化、商習慣等の環境に適応し、多様な人々のニーズや現場のニーズに寄り添い、課題解決を図るための最先進の科学技術やシステム、ネットワークを実装しマネジメントができるイノベティブな人材

### [都市社会共生学科が養成する人材]

- 人文社会科学分野の様々な知見を理論のみならず、実践的に発展させることができる人材
- このような能力に基づき、多様性・流動性によって特徴づけられる21世紀の都市社会を多角的に分析し、これに介入することができる人材
- 一つの分野に閉じるのではなく、様々な領域との対話・協働の上に創造的なヴィジョンを構築しうる人材

### [ソクラテスプログラムが養成する人材]

- 現代社会が直面する持続可能社会の構築に関わる課題解決にグローバルとローカルの両視点から貢献するイノベティブな人材
- 各ディシプリンの知識をもち、持続可能性と社会的レジリエンスに関する課題を政治、経済、社会、文化など様々な側面から実践的に発展させることができる人材
- 多様な背景を持つ人々と協働しながら課題解決に導くことができる人材
- 様々な領域との対話・協働の上に創造的なヴィジョンを構築しうる人材

## DP2 都市科学部都市社会共生学科の 卒業認定・学位授与方針

都市科学部都市社会共生学科が卒業を認定し、学位を授与するために修得しておくべき学修成果（身に付けるべき資質・能力）の目標を定める。

### [都市科学部（学修成果の目標）]

- グローバルとローカルな関係を理解し、リスク共生学を学び、イノベーションの理解を深めることで、都市科学の基本を理解することができる能力
- 人文社会科学系の学科ではあわせて理工学系の知識・能力を身につけ、理工学系の学科ではあわせて人文社会科学系の知識を身につけ、文理融合の視点を理解することができる能力
- グローバル化に対応するため、特に海外の異なる文化や社会、商習慣等を理解し、異なる環境に適応できる資質・能力
- 複雑で多様な国際都市を理解するため、豊かさやリスクのバランスをマネジメントするリスク共生を理解できる能力
- 横浜・神奈川地域や新興国の都市をフィールドに実践力を身につけ、グローバルとローカルな課題を接合し、文系と理系の視点を融合することで、21世紀における都市の課題を解決し、新しい都市のあり方を構想し設計できる能力

### [都市社会共生学科（学修成果の目標）]

- 21世紀の都市のために再構成された人文社会科学を学び、さらに建築学や都市基盤学、環境リスク共生学を併せて学ぶことで、都市科学を総合的に理解する能力
- 人文社会科学については、都市社会の構想（ベーシック）、設計（アドバンス）、実践（スタジオ科目・演習科目等）、評価（卒業研究）の段階を踏んで理解を増し、都市に対して深く認識し、実践する能力
- 地域性と国際性をバランスよく身に付ける能力
- 専門基礎科目および専門科目を通じて、人文社会科学分野の様々な領域の確かな学識を身につけ、これを有機的に結びつけることができる能力
- 他学科・他学部の専門科目を関連科目として履修することで、他の領域との開かれた対話を行うことができる資質
- 「ローカル／グローバル」科目を中心とする学科専門科目による、ローカルとグローバルを同時に視野におさめる能力
- スタジオ・インターンシップ科目による、理論的・分析的思考を実践的応用に発展させることができる能力

### [ソクラテスプログラム（学修成果の目標）]

- Social ResilienceとSocial Sustainabilityに関わる専門知識を身につけている。
- 現代社会の諸課題を人文社会科学のディシプリンから検討し議論できる。
- Social ResilienceとSocial Sustainabilityを実現するためのプロセスをグローバルとローカルの視座から構想し、実践できる。
- 学修上の基盤的リテラシーを身につけている。
- 日本語と英語の両方を使って、多様な背景を持つ人々と協働しながら課題解決に導くことができる。
- 思考力、判断力、俯瞰力、表現力を身につけ、持続可能でレジリエントな社会の実現に向けて、創造的なヴィジョンを構築しうる。
- 社会における諸問題の構造を明らかにし、修得した専門的知識を使って考察して成果を文章化できる。

## DP3 都市科学部都市社会共生学科の 卒業認定・学位授与基準

### [卒業認定基準]

都市科学部都市社会共生学科に修業年限4年以上在学し、学部教育科目94単位以上、全学教育科目30単位以上、合計124単位以上を修得し、かつ卒業に関わる授業科目のGPA（Grade Point Average）2.0以上を満たした上、学部が定める卒業の審査に合格した者に卒業を認定する。

### [学部教育科目]

- 学部教育科目については、学部共通科目14単位以上を含む94単位以上を修得すること。
- 都市科学の基幹知を学ぶ学部共通科目（基幹知科目）については、必修科目3科目4単位とグローバル・ローカル関連科目2科目以上、リスク共生関連科目2科目以上、イノベーション関連科目2科目以上を含む合計14単位以上を修得すること。
- アカデミックリテラシー、情報リテラシー、シビックリテラシーの内容を含んだ基礎演習科目1単位、人文社会科学の基礎を学ぶ学科専門基礎科目5単位、学科専門科目74単位以上を含む合計80単位以上を修得すること。

■学科専門科目は、コモンズ・ベーシック科目（選択必修）8単位（うち「社会と共生の学び（社会学領域）」から4単位以上）、コモンズ・アドバンス科目（選択必修）16単位（うち「社会と共生の学び（社会学領域）」から8単位以上）、スタジオ科目（選択必修）24単位、ローカル／グローバル科目とインターンシップ科目及び関連科目（建築学科、都市基盤学科、環境リスク共生学科、経済学部、経営学部による提供科目）の中から合わせて18単位（うちローカル／グローバル科目を14単位以上）、卒業研究関連科目から8単位の合計74単位以上を修得すること。

■学部教育科目のうち2単位以上は、英語を使用または英語のテキストを中心に用いる英語関連科目を修得すること。

#### [全学教育科目]

■全学教育科目については、人文社会系基礎科目4単位以上、自然科学系基礎科目4単位以上、英語科目6単位以上と初修外国語科目4単位以上を含む外国語科目12単位以上を修得すること。

■高度全学教育指定科目として設定している学科が指定する基礎科目及びグローバル教育科目及びイノベーション教育科目から合計4単位以上を3年次あるいは4年次に修得すること。

■私費外国人留学生は、外国語科目は日本語科目で代替することができる。

#### [学位授与基準]

都市科学部都市社会共生学科を卒業した者に対し、学士（学術）／Bachelor of Artsの学位を授与する。

#### [ソクラテスプログラムの卒業認定基準]

修業年限4年以上在学し、日本語能力J200レベルの所定の科目を修得するか本学の日本語プレースメントテストにおいてJ300レベルと認定されている必要があり、学部教育科目96単位以上、日本語・教養科目28単位以上、合計124単位以上を修得し、かつ卒業に関わる授業科目のGPA（Grade Point Average）2.0以上を満たした上、学部が定める卒業の審査に合格した者に卒業を認定する。

#### [ソクラテスプログラムの卒業認定基準（学部教育科目）]

■授業科目64単位以上、スタジオ科目24単位、卒業研究科目8単位を修得すること。

■授業科目については、基礎共通科目（必修科目を含む）14単位以上、専門導入科目（全て必修科目）8単位、専門選択科目及び専門関連科目42単位以上を修得すること。

#### [ソクラテスプログラムの卒業認定基準（日本語・教養科目）]

■日本語・教養科目を28単位以上修得すること。

#### [ソクラテスプログラムの学位授与基準]

学士（学術）／Bachelor of Artsの学位を授与する。

# 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

## CP1 都市科学部都市社会共生学科の 教育システムとカリキュラム基本構造

### [教育課程の編成方針]

都市科学部都市社会共生学科の教育課程は、学部教育科目および全学教育科目により適切な授業科目の区分を定めて体系的に編成するものとする。

各授業科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

学部教育科目は、学部共通（基幹知）科目、専門基礎科目、専門科目、及び卒業研究から編成する。

学部共通（基幹知）科目は、都市科学の基礎（必修）、グローバル・ローカル関連科目（選択必修）、リスク共生関連科目（選択必修）、イノベーション関連科目（選択必修）から編成する。

### [都市社会共生学科（教育課程の編成方法）]

- 専門基礎科目は、人文社会科学の基礎を学ぶ4つの必修科目から編成
- 専門科目は、「コモンズ・ベーシック科目」「コモンズ・アドバンス科目」「スタジオ科目」「ローカル／グローバル科目」「インターンシップ科目」「関連科目（建築学科、都市基盤学科、環境リスク共生学科、経済学部、経営学部による提供科目）」から編成

### [1・2年次]

- 学部共通科目は、「都市科学A」「都市科学B」「都市科学C」（必修）、および「グローバル・ローカル関連科目」「リスク共生関連科目」「イノベーション関連科目」（選択必修）を履修
- 学部教育科目は、「専門基礎科目」（必修）、「コモンズ科目」（選択必修）、「スタジオ科目（I・II）」（選択必修）を履修

### [3・4年次]

- 学部教育科目は、「コモンズ科目」（選択必修）に加え、「ローカル・グローバル科目」（選択必修）を履修。「スタジオ科目（III・IV）」（選択必修）だけでなく、選択科目として「インターンシップ科目」「関連科目」を履修することができる。
- 卒業研究は、「卒業研究A」「卒業研究B」を履修

### [1～4年次]

- 全学教育科目の英語演習、初修外国語演習、高度全学教育指定科目（グローバル教育科目、イノベーション教育科目）の3・4年次履修
- 在学期間中に国内外インターンシップや短期留学を強く奨励

### [ソクラテスプログラム（教育課程の編成方針）]

- ソクラテスプログラムの教育課程は、学部教育科目および全学教育科目により適切な授業科目の区分を定めて体系的に編成するものとする。
- 各授業科目は、必修科目、選択必修科目、および選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

### [ソクラテスプログラム（教育課程の編成方法）]

- 学修上の基盤的リテラシーとして、低学年時に基礎共通科目を必須科目として配置する。
- 専門科目は、「専門導入科目」「専門選択科目」「専門関連科目」「スタジオ科目」「卒業研究科目」から編成される。
- "Sustainable Societies and Cultures","History and Geography","Environment and Resilience Studies","Governance and Development"の4つを主たる専門分野として編成する。

## CP2 都市科学部都市社会共生学科の 教育課程プログラム運営と成績評価基準

### 〔教育課程の実施方針〕

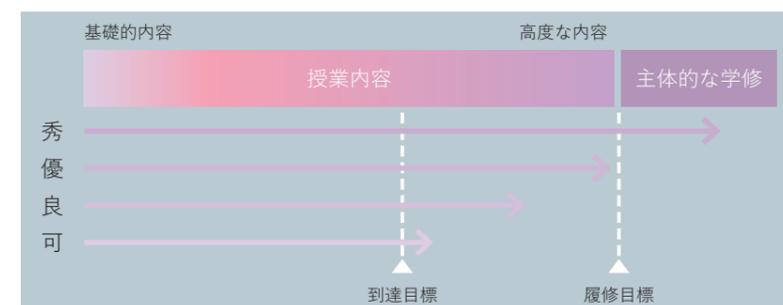
都市科学部都市社会共生学科の教育課程は、国際通用性のある質保証された学士課程教育を実現するとともに、教育課程の編成方針に従い、次の取組を実施するものとする。

- 人文社会科学のそれぞれの分野について、基礎・発展・応用・実践からなる段階的カリキュラムに沿って学ぶ。
- 専門基礎科目については、4つの必修科目を用意し、これにより人文社会科学の基本となる考え方や方法を学ぶ。
- 専門科目のうち、とりわけ「コモンズ」科目については、ベーシック科目を社会構想系、アドバンス科目を社会設計系と位置づけ、段階的に社会的ニーズに応えるための視点を身につける。
- 演習科目である「ローカル・グローバル」科目では、自ら問題を設定し、課題解決的な応用思考を学ぶ。
- 「スタジオ」科目を2年次から3年次にかけての選択必修科目とすることで、実際のフィールドにおいてこれまでの学修の応用・実践に取り組む。
- 人文社会科学の学修を軸とし、これを段階的に身につけていながら、他学科・他学部の科目を履修することで、より多角的な視点と他領域との開かれた対話の能力を身につける。

### 〔成績評価基準〕

都市科学部都市社会共生学科の成績評価は、「授業設計と成績評価ガイドライン」による全学統一の成績評価基準に基づき、WEBシラバス（Syllabus）に記載した成績評価の方法により総合判定し、成績グレード（評語）を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表し、それぞれの授業科目の成績評価に対してGP（Grade Point）を与えるものとする。ただし、5段階の成績グレード（評語）で表し難い授業科目は「合格・不合格」で表し、GP（Grade Point）を与えないものとする。成績評価の基準には、学修成果に係る評価指標として「授業別ルーブリック」を作成し、学生が学修する内容と学生が到達するレベルをマトリクス形式で明示するものとする。

評語	成績評価の基準	GP	
秀	履修目標を越えたレベルを達成している	4.5	100-90点
優	履修目標を達成している	4	89-80点
良	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	3	79-70点
可	到達目標を達成している	2	69-60点
不可	到達目標を達成していない	0	59-0点



- 1 履修目標は、授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標とし、より高度な内容は主体的な学修で身に付けることが必要であり、履修目標を超えると成績評価「秀」となる目標
- 2 到達目標は、授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標とし、到達目標を達成すると成績評価「可」となる目標であり、さらなる学修を必要とするレベルを示す

#### [ソクラテスプログラムの教育課程の実施方針]

- ソクラテスプログラムの教育課程は、国際通用性のある質保証された学士課程教育を実現するとともに、教育課程の編成方針に従い、次の取組を実施するものとする。
- Social Resilience と Social Sustainability に関するそれぞれのディシプリンについて、基礎・発展・応用・実践からなる段階的カリキュラムに沿って学ぶ。
- ソクラテスプログラムの4つの主たる専門分野の入門科目全てを必修科目とし、Social Resilience と Social Sustainability の根幹をなす考え方や方法論を学ぶ。
- 専門選択科目について、隣接科目での授業内容と有機的に連携した科目配置とする。
- 「スタジオ」科目を2年次から3年次にかけての選択必修科目とすることで、学生の問題関心を学生自身の力で深掘りさせる。
- 可能な限りソクラテスプログラムの学生以外にも授業を開放するなど国際共修を促進する。

#### [ソクラテスプログラムの成績評価基準]

- ソクラテスプログラムの成績評価は、「授業設計と成績評価ガイドライン」による全学統一の成績評価基準に基づき、WEB シラバス (Syllabus) に記載した成績評価の方法により総合判定し、成績グレード (評語) を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表し、それぞれの授業科目の成績評価に対して GP (Grade Point) を与えるものとする。ただし、5段階の成績グレード (評語) で表し難い授業科目は「合格・不合格」で表し、GP (Grade Point) を与えないものとする。
- 成績評価の基準には、学修成果に係る評価指標として「授業別ルーブリック」を作成し、学生が学修する内容と学生が到達するレベルをマトリックス形式で明示するものとする。

### CP3 都市科学部都市社会共生学科における 入学から卒業までの学修指導の方針

#### [学修指導の方針]

都市科学部都市社会共生学科の学修指導は、学生の多様なニーズや学修支援の効果等を踏まえて適切に実施するとともに、次の取組を実施するものとする。

#### [1年次]

- 全学教育科目と平行して、専門教育の導入的役割を担う「基礎演習科目」と「専門基礎科目」を中心に初年度教育の履修指導を行う。

#### [2年～3年次]

- 2年次以降、「コモンズ・アドバンス科目」と演習科目である「ローカル／グローバル科目」を履修し専門性を高めていく。2年次から3年次へと続くスタジオ科目において、これらの科目での学修を実践へと応用する力を身に付ける。
- 2年次以降インターンシップ科目と他学科・他学部提供の関連科目を履修し、より多角的な視点を修得する。

#### [4年次]

- 4年次に履修する課題演習と卒業研究からなる卒業関連科目では、構想・設計・実践を通じた学びの評価と総括に充てる。

#### [授業科目履修と履修登録上限 (CAP制)]

授業科目の履修は、原則として半期24単位を上限とする。ただし、他大学で履修する科目、集中講義・不定期科目、スタジオ科目、卒業研究関連科目の中にはこの上限設定から除外される科目がある。

### [ソクラテスプログラムの学修指導の方針]

#### [1年次]

- 日本語・教養科目と並行して、専門教育の導入的役割を担う「基礎共通科目」と「専門導入科目」を中心に初年度教育の履修指導を行う。

#### [2年～3年次]

- 学生の希望や興味、あるいは卒業後の進路についての個別相談体制を充実させながら、Social Resilience と Social Development に関わる基礎概念や知識、理論、方法論などで各学生の専門性が高められるように履修について適宜アドバイスを行う。授業科目については、知識習得を優先するような科目では一方向的な授業も残しながらも、アクティブラーニングによる授業運営を行なって、学修を実践へと応用する力を身に付ける。
- 地域課題実習や海外留学を推奨し、さまざまなバックグラウンドを持つ人々との協働学修の機会が持てるようにする。

#### [4年次]

- 4年次に履修する課題演習と卒業研究からなる卒業関連科目では、研究課題の設定、論文構想、分析、検討、議論を通じた学びの評価と総括に充てる。

### [ソクラテスプログラムの授業科目履修と履修登録上限 (CAP制)]

授業科目の履修は、原則として半期24単位を上限とする。ただし、他大学で履修する科目、集中講義・不定期科目、スタジオ科目、卒業研究関連科目の中にはこの上限設定から除外される科目がある。

## Policy3

# 入学受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

## AP1 都市科学部(都市社会共生学科)が求める学生像

都市を担う人間とそれを支える自然環境、社会環境、文化システムなどを対象として、文理にわたる幅広い視点から社会課題を科学的に分析・考察・実践することにより解決し、多彩な分野で活躍できる人材の育成を目指す。よって、次に示す人の入学を求める。

### [都市科学部が求める学生像]

- 理工系と人文社会系の知識を学ぶことで文理両面やダイバーシティ（多様性）の視点、複眼的思考を身に付けたい人
- ローカル・グローバルにわたる多角的な世界を相互理解できる広い視野をもち、横断的な課題解決能力、総合力を身に付けたい人
- 上記の視点と視野・知識・能力・技術を身に付けて、街づくり、都市文化・社会基盤構築、自然との調和で都市の未来に貢献したい人

### [都市科学部都市社会共生学科が求める学生像]

- 人文社会科学分野の知識や技能を活用し、われわれの未来にとって豊かで美しく、国際的・文化的に魅力のある都市社会の発展に寄与したい人
- 歴史・文化・地域・社会に関する深い理解にもとづいて、現代社会、都市社会の多様な課題を考究し、時代や状況に応じた制度づくりや新しい芸術・文化の構想によってこれからの社会に貢献したい人
- 地球的な視野を持ってダイバーシティ（多様性）がはらむ創造的な可能性、および格差や貧困などの問題を把握し、人間生活の社会の向上のための活動を国内外で行いたい人

### [ソクラテスプログラムが求める学生像]

本プログラムで、ローカル及びグローバルな空間に横たわる政治的、経済的、社会的課題に対し Social Resilience と Social Sustainability の視点から対応できる人材を養成するにあたり、下記の学力の3要素を念頭に置き、幅広い視点から社会課題を人文社会科学の方法を使って分析・考察・実践することにより解決し、多彩な分野で活躍できる可能性をもった入学者を求める。

## AP2 都市科学部(都市社会共生学科)が 入学者に求める知識や能力・水準

都市科学部都市社会共生学科では入学後、人文社会科学分野の教育を実施するために、次に示す知識や能力・水準を求める。

- 人文社会科学分野の知見（思想・芸術、歴史学、人類学、政治学、社会学など）の教育を実施するために、高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能を前提とし、特に国語、社会、外国語の試験を課して、論理的思考力を求める。
- 人文社会科学分野の研究能力（文献読解、論文作成、成果発表など）を養う教育を実施するために、国語、社会、外国語の学力を土台とし、小論文や面接で総合的な設問を課して、視野の広い考察力と表現力、文章構成の能力やコミュニケーションの能力を求める。
- 人文社会科学分野の調査能力（アンケート・インタビュー、統計処理など）の教育を実施するために、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を重視するとともに、各種の情報を処理するために必要な基礎的学力を求める。

### [ソクラテスプログラム]

#### (1) 知識・技能：

高等学校等での各科目での学びを通して習得した基本的知識と、授業や演習及び日常のコミュニケーションに十分な英語力、最低限の日本語力もしくは日本語を学ぶ意欲を求める。

#### (2) 思考力・判断力・表現力：

不確実性の高まる空間で遭遇する様々な課題に対し、多様な視角を理解し、自分がいる時空間を超えて広い観点から思考できる能力や判断力を備えており、それらを2カ国語以上の言語を駆使して自分なりに表現する意欲と能力を持っている。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)：  
専門領域について意欲的に学ぶ姿勢を持ち、様々なバックグラウンドを持った人々と協働しながら自らの能力を高めようという意識を備えている。

## AP3 都市科学部(都市社会共生学科)の 入学者選抜の基本方針

都市科学部都市社会共生学科では、入学者に求める関心、意欲、態度、また必要な知識や能力・水準を確認するため、複数の受験機会と多様な入学者選抜を次のように実施する。

### [一般選抜(前期日程)]

大学入学共通テストの成績(国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語)、個別学力検査等(小論文)の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に小論文では、専門教育の基礎となる学力として、国語、社会、外国語の学力を土台として、論理的思考力と文章構成の能力を中心に評価する。入学志願者数にかかわらず、2段階選抜は行わない。

### [一般選抜(後期日程)]

大学入学共通テストの成績(国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語)、個別学力検査等(面接)の成績、自己推薦書及び調査書の内容を総合的に評価する。特に面接では、専門教育の基礎となる学力として、国語、社会、外国語の学力を土台として、論理的思考力とコミュニケーション能力を中心に評価する。大学入学共通テストの成績および調査書により第1段階選抜を行い、その合格者についてのみ個別学力検査等を行う。

### [総合型選抜]

第1次選抜では特色活動説明書、学習計画書及び調査書の内容を、第2次選抜では文章実技および面接試験の成績を評価する。特に第2次選抜では、専門教育の基礎となる学力として、国語、社会、外国語の学力を土台として、文化的・社会的現象に関するテーマについての基本的な理解、論理的思考力と文章構成の能力、コミュニケーション能力を中心に評価する。第2次選抜の成績および大学入学共通テストの成績(国語、地理歴史・公民、数学または理科、外国語)により最終合格者を決定する。

#### [帰国生徒選抜]

第1次選抜では特色活動説明書、学習計画書、最終出身学校の成績証明書の内容および外部英語試験（TOEFL又はIELTS）の成績を、第2次選抜では文章実技および面接試験の成績を総合して評価する。特に第2次選抜では、専門教育の基礎となる学力として、国語、社会、外国語の学力、論理的思考力と文章構成の能力、コミュニケーション能力を中心に評価する。第2次選抜の成績及び外部英語試験（TOEFL又はIELTS）の成績により選抜を行い、最終合格者を決定する。

#### [YGEP-N1（私費外国人留学生入試 [渡日入試]）]

日本留学試験、外部英語試験（TOEFL、TOEIC 又は IELTS）の成績および高等学校等の成績証明書の提出を出願要件として課し、面接試験の成績と総合して評価する。専門教育の基礎となる学力として、日本語、社会、外国語の学力、論理的思考力と文章構成の能力、コミュニケーション能力を中心に評価する。